

曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

鯉跳ねし波紋若葉の風を乗せ

池田 安起徒

風に乗り風に紛れて紋白蝶

児玉 典子

新緑に包まれ眠る兵の墓

宮路 生大子

大陽俳句会

手を止めて伸び伸び浴ぶる若葉風

岩重 みどり

西瓜喰ふ遠い日のこと妣のこと

鍋山 美智子

葦茂る中州に潜む鷺の影

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

千の枝に千の雨滴の光あり

リハビリの先生走ってくるかな

長倉 佳津子

財部短歌会

ふざげども友と語ればぼつぼつと

心の荷物の軽くなりゆく

脇丸 洋子

貪欲に杉の大樹を絡め取る
藤への喝采素直になれない

泊 康

幾千か幾万匹の蟻進む
「ずぼら」はいるか行列切れず

大森 巳喜生

大陽短歌会

にぎやかに囁りあいて実を落とす

小鳥宿らせ桑の木古りぬ

川辺 敦子

松島に勝ると聞きいし天草は

黄砂に隠れ勝負を避り

西山 美代子

愛知から帰郷の友とクラス会
またの逢瀬を約して別る

北村 弘子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

満開の花もいつしか葉桜に
みどりの色の深く耀ふ

井上 澄子

早朝あさでたち 帰もどいが遅おそち
心配せわをえつ

浜田 一好

電話でんわしつ 出でらんな心配せわし
郷里さとん老母かか

胡摩ケ野 べぶまつ

熱ねちや無なかち コロナが心配せわで
計はかいどえ

桐野 奈世

面倒見めんどみい 我わがこた棚たなで
他人ひとん心配せわ

高瀬 博多夜舟

徒競走はしりぐら ひまごが心配せわで
婆ばは疲だれつ

山中 ミツどん